

江南市 歴史ガイド短時間コース (草井の渡しコース)

江南市歴史ガイドの会
連絡先: 江南市観光協会事務局
(江南市役所商工観光課内)
TEL: (0587) 54-1111

1. 移動ルート/ すいとぴあ江南発着の徒歩総移動距離: 約2km
所要時間: 約1時間

江南駅 ⇒ すいとぴあ江南 ⇒ B草井の渡し ⇒ C水神社 ⇒ D猿尾堤 ⇒ E御囲堤 ⇒ すいとぴあ江南 ⇒ 江南駅
300m 50m 1000m 400m 200m
江南駅からは、バス/タクシーを御利用下さい。(バス: 3番乗り場、所要時間20分)



A 木曽川

長野県木曽郡木祖村の鉢盛山(2,446m)南方を水源とし、御嶽山から流れ来る王滝川と合流した後、木曽の棧や寢覚の床等の溪谷を形成しながら岐阜県に入り恵那峡、深沢峡、蘇水峡等の峡谷を形成し、飛騨川と合流する。その後は、犬山城付近まで再度溪谷を形成しており、これらを総称して「日本ライン」と呼ばれています。この木曽川は、三重県桑名市長島町で伊勢湾に注ぎます。



B 草井の渡し

渡しの起源は、承久の乱の時に鎌倉の軍勢がここを渡って都へ攻め上ったと伝えられています。この渡しに公に許されたのが、小牧・長久手の戦いを機会に秀吉からお墨付きをいただいたことからです。その後、木曽の開発と共に、材木や各地名産品が木曽川を下って来ることにより、草井港が創設され、渡し場と共ににぎわいました。しかし昭和44年(1969)の愛岐大橋の完成に伴い、昭和45年(1970)に廃止されました。



C 水神社

災害等による水死者の流着が在ったことから当時の村人達は、水神様を崇めたものと言われています。



D 猿尾堤

猿尾は、氾濫する洪水の水勢をそいで本堤を守る為に堤から猿の尾のように斜めに築堤した突堤のことです。この猿尾は、「忠平猿尾」と呼ばれ、小脇・鹿子島町を囲む二重堤を守った長さ500mにもなる治水の遺構で、鹿子島住人の忠平親子が築堤したと言われています。



E 御囲堤(おかこいつつみ)

江戸幕府を開いた徳川家康は、江戸防衛の最前線として重要な尾張に実子の松平忠吉、次いで同じく徳川義直を置き、名古屋城を築城しました。そして名古屋防衛の為、木曽川が濃尾平野に出る犬山付近から河口部の弥富までの左岸 48 km に御囲堤を引堤しました。

